

26年5月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 4月20日～ 26年5月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/5月	6月	7月
伐採動向	スギ	△ 20.0	0.0	10.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	12.5
	カラマツ	△ 25.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 50.0	50.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	△ 10.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 25.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 50.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	エゾ・トド	△ 50.0	0.0	0.0

スギ及びヒノキの伐採は5月の減少が7月に向け増加に、カラマツは5月の減少が6,7月には横ばいに、エゾ・トドは5月の減少が6月の増加を経て7月には横ばいに。

スギ及びヒノキの出荷・販売は5月のやや減少が6,7月には横ばいに、カラマツ及びエゾ・トドは5月の減少が6,7月には横ばいに。

手持立木在庫はスギ、ヒノキ及びカラマツは減少傾向で推移、エゾ・トドは5月の減少が6,7月には横ばいに。

モニターからのコメント

(伐採動向) ・トドマツ及びカラマツともに需要があり、伐採は進んでいるが、山では、まだ融雪で地面が軟弱で作業効率が落ちている。当地では運材車が足りず山元土場に素材があって製材工場等への販売が遅れており、需要は旺盛。新年度の国有林立木公売で手持ち立木を手当てし、伐採分を補充する予定。

- ・森林組合の下請け中心。
- ・受注時期遅れ。スギ及びヒノキの立木在庫はゼロ。
- ・スギ及びカラマツの伐採の動きがやや落ちてきている。
- ・スギ及びヒノキは虫害時期で伐採がやや減少

(出材・販売動向) ・市場でスギの単価が高くスギの出材が増加。

- ・スギ及びカラマツの値動きは落ち着いてきている。
- ・虫害時期でスギ及びヒノキの出材・販売はやや減少。

(手持ち立木在庫) ・

- ・スギ及びカラマツの手持ち立木在庫やや少なめ。